

第1回 FIS・NC ワーキンググループ「ローラースキー」

日時：2009年9月25日（金）9:00-10:00

場所：スイス・チューリッヒ Hotel Hilton Airport Room London B

1. 開会
2. 出席確認
3. 議題の確認
4. アンケートのレポート
 - アンケートに対して16ヶ国から返答があり、多くのスキー連盟がサマーグランプリでローラースキーの使用を望んでいる。
 - オーベストドルフでインラインスケートとローラースキーのスピードを比較するテストを実施。このテストでは Marwe 社製と DMS 社製のローラーテストとインラインスケートのスピードを比較し、平均してインラインスケートの方が約1m/秒速かったことが報告された。
5. ローラースキー使用に関するガイドライン
 - ローラースキーの準備
 - 60～70ペアのローラースキーを準備する。
 - 同等のローラースキー（スピード・タイヤ）を準備する。
 - 3種類のビンディングで使えるようにする。
 - メーカーによるフルサービス
 - 2～3名のスタッフを使用するローラースキーメーカーから派遣してもらう。
 - 大会期間中は、このスタッフがローラースキーのメンテナンスを行う。
 - トレーニングと試合におけるローラースキーの使用について
 - 試合でのみ、メーカーから配布されるローラースキーを使用する。
 - 各チームによるチューニングを禁止する。
 - 試合開始直前にトランスポンダーと一緒にローラースキーを配布する。
 - トレーニングは各自のローラースキーを使用する。
 - ローラースキーの配布はジャンプのランク順とする。
 - その他
 - コースプロフィールは適度なアップ・ダウンがあるが望ましいが、必ずしも最後にアップヒルを設定する必要はない。
 - タイヤのタイプ（高速・低速）は中程度とする。
 - 60～70ペアのローラースキーとスタッフによるサポートが可能なメーカーがあるか各メーカーと交渉を行う。
6. 委員会への提案事項
 - 議題4と5をまとめ、委員会で報告する。

7. 次回の会議

- バンクーバー五輪期間中に開催する。